

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田 喜代史
淡河 恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶ 今回の特集は“核医学検査 最近の話題”です。最近の核医学診療は近未来に向けて大きく変貌しつつある過渡期にあると感じています。

▶ 1990年代の前半に核医学の領域では新しい放射性薬剤が次々に上市され、臨床的にも学問的にもとても勢いがありました。ところが90年代の後半から新しい製剤の出現がぱったりと止まり、核医学はいわば冬の時代となっていました。

▶ しかし、ここ数年で新しい製剤が次々に登場し、今後さらに新製剤の出現が期待され、核医学のラインナップが充実しつつあります。このような状況で、核医学検査の最近の話題について、放射性薬剤のみではなく、新しい解析法や核医学検査に関連する新しい疾患概念なども含めて領域横断的に言及する企画を設定しました。読者のみなさまが最近の核医学や近未来の核医学の状況の概要を把握する一助になればと思っております。今回取り上げなかった話題として、MIBGを用いた核医学治療、高画質で優れた診断能を有するPET用の新しい腫瘍イメージング剤であるFAPIや心筋血流イメージング剤のflurpiridazなどもあり、核医学の進歩から目が離せない状況が続くと思います。

▶ 折しも一昨日、わたしの手元に日本心臓核医学会の学会誌である“心臓核医学”の27巻1号が届きました。この冊子には“日本心臓核医学会 ATTR 心アミロイドーシス核医学画像診断ワーキンググループ報告”が掲載されており、今回の特集でも執筆をお願いしました工藤 崇先生を中心にまとめられたものです。この報告ではピロリン酸シンチグラフィの所見の判定法が明確にされ、高齢者には負担が大きい心筋生検を省略して心アミロイドーシスの薬物治療を開始できる症例群を選び出したいという臨床サイドからの要望もあって、大変注目されています。脳のアミロイドPETやフルシクロピンPETなどもそうですが、治療の施行において決定的な役割を果たす核医学検査の重要性が認識されつつあり、核医学に春が訪れてきていると感じています。

橋本 順

「臨床放射線」第70巻第2号

2025年3月10日発行
隔月(1, 3, 5, 7, 9, 11月)10日発行

定価 3,960 円 (本体 3,600 円 + 税 10%)

年間購読料金
定価 23,760 円 (本体 21,600 円 + 税 10%)
[年間6冊の誌代]
年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
TEL 03 (3811) 7165 編集部直通
TEL 03 (3811) 7184 営業部直通
FAX 03 (3813) 0288
ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社
広告申込先 文京メディカル TEL 03 (3817) 8036

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。